



# 善正寺だより

掲示板法話

## 歳を重ねることは有難い

### 苦悩の境涯もお育て頂く仏縁

今年も、あつという間に師走を迎えました。「忙しいですね」「慌ただしいですねえ」という言葉が飛び交います。何か空しくありませんか？

歳を重ねる自分の人生が空しいと感ずるならば、人間の命を頂いたこの人生も甲斐がないことになります。それでは、私をこの世に生み、育てて下さった両親やご先祖様、たくさん恵まれた多くのいのちに対して誠に申し訳ないということになります。

先日、兵庫県の法友りさんから『一味』という小冊子を送られました。それは今年五月に往生された梯實圓かけはしじつえん和上追悼号でした。先生は「歳を重ねることはありがたい」と常に語っておられたそうです。それはみ教えによつて日々「お育て」頂くことを慶ばれてのお言葉でありましょう。

その法話誌を定期購読していなかった私に、遠隔地のお同行さんがわざわざ送り届けて下さったということもまた、誠にたじけなく「お育て」だ、と気づかされました。ちょうど一年前の十一月末、大阪の



故梯実円和上

お寺の報恩講での「出世本懐」と題された最晩年のご法話が掲載されています。

正信偈の「如来所以興出世 唯説弥陀本願海 五濁悪時群生海 応信如来如実言」の御文を拠り所にして、「『お前は何のために生まれてきたのだ』と問われた時に『私はこのご本願を聞かせて頂くために生まれてきた』ということがはつきりと味わえたなら、後のことはどうでもいでしょう」と断言しておられます。

加齢と共に、様々な病気を背負っておられた身を案じて、先生の出講を控えてもらったかどうかと、周囲が心配したという。すると先生は「身体は、しんどいでんなあ。けどね、講演に呼ばれる度に、またお聖教を拝読させて頂いて、ご法義をお聞かせ頂けるのが有難くてしょうがないんです。そうしますと出講をご依頼下さった方やお聴聞に来られるお同行方が私に仏縁を結んで下さる還相げんそう（お浄土からこの世に戻って衆生を救う働き）の菩薩ぼさつさまに見えてくるんですわ。ご法座は私

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

### ☆行事ご案内☆

## ☆お内仏報恩講

12月6日(土)夜7時半・庫裏仏間

ぜんざい、お酒、お寿司等用意してお待ちしています。忘年会も兼ねていますので、お誘い合わせてお参り下さい。毎年30名～40名程の皆さんがご参集下さいます。

- ◇キッズサンガ 鐘つきは毎夕5時、年中無休、ご褒美のガム
- ◇除夜の鐘 12月31日夜11時45分より誰でも撞けます
- ◇元旦会 1月1日朝9時より本堂で「正信偈」、お年玉付き
- ◇三重組コーラス 11/22『御堂演奏会』本山13回目

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設6年4か月で15万7千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎！

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

### ☆秋勸進11月23日(金・祝)午前8時より

行事さんが手分けして巡回、懇志ご協力よろしくお願ひします。来年度年回表、カレンダー、12月号寺報等配布、

※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定！

ご法要までいよいよ1年6か月、皆様のご協力よろしく！

◇お稚児さん募集開始！参加費5千円、詳細お申込みは寺まで生涯のよき思い出、仏縁です。お誘い合わせてご参加下さい！

◇三重組観劇ツアー来々1月28日午後、中日劇場、九条武子物語『如月の華』前進座、参加費1万2千円、残り席わずか、参加希望者は代金を添えて寺まで至急お申込み下さい。

◇新納骨堂後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい



『報恩講』お参り風景



夜、琴と歌の楽しい共演  
孫も琴の音色に興味津々

をお育て下さる場なんですか。ありがたいでんなあ」とおっしゃったそうです。気取らず、大阪弁そのままに話し下さる柔らかな顔が浮かんで参ります。梯和上さまのお導きによって、「人の世に生まれてきた本当の意味は、苦悩の境涯も皆お育て頂く仏縁であり、如来さまの仲間にならせて頂く道を歩むことにある」と教えられる。

来年も依頼され大好評！



第4回善正寺門徒展、百五銀行展示に続き本堂でも



手作りお非時料理 行事さんのおもてなしで和気藹々と

# 坊守スケッチ

## 法事はいつまで勤めるの？



「法事は何回忌まで勤めたらいいですか？」という質問を時々頂きます。質問者はできるだけ法事を勤めたくないという真意が見え隠れしています。お寺側から無理に勤めよとは言いません。辛いので困ります。報恩講のお説教で先生が的確にお答えになりました。

「法事と食事は一字違いですがよく似ています。『あなたはいつまで食事をしますか？』と聞かれたら、誰しも答えられません。法事は先祖の為、食事は自分の為と違って、実は食事は自分のためではありません。両方とも自分が生きるために必要不可欠なものです。食事は体づくり。法事は心づくり。身近な人の死を縁として私に仏法が届けられているのです。私自身の生き方の中身を問うのが法事です。だから何回忌までと区切らず、できる限り勤めさせて頂くのが有難いのです」

最近では法事どころか、お葬式もせず『直葬』で火葬するだけの人もいます。お骨や灰は海か山に捨てます。愛する人がまるでゴミ同然です。家族の死には涙を見せなかったのに、可愛がったペットの死には涙を流す人。お墓も家族と一緒に嫌という人。世の中が進化して恵まれ過ぎて、どこかおかしくなっていますか？  
高齢者側も残された人達に迷惑は

かけたたくないと思慮がち。果たして法事や葬儀を勤めることが、若い人には迷惑なことなのでしょうか？

よく考えてみて下さい。この世の中で受け継がれているものや、人生にとって大事なことは、一概に面倒なことが多いものです。たとえば子育てとか介護という人と人が関わる問題です。昔の人は親から子へ孫へと教えられ、家族や地域で協力することで伝えてきました。現代はそれらが壊れて、国の制度に頼らなければなりません。お金でサービスを上手に利用しても、肝心の苦労を経験していないので、ちょっと人生の歯車が狂い始めるとたちまちパニック！今面倒なことも厭わずに進んで実践すれば、流した涙と汗の分だけ、必ずあなたは自分の人生を切り開く力に恵まれることでしょう。

### カンパありがとう

山中つや子様、栗本洋子様、他匿名様よりお志、切手などを頂戴しました。

### ホットニュース

☆毎年報恩講夜に琴の演奏を披露して下さいます伴野節子先生が四日市文化功労者として表彰されました。琴に合せて今年も楽しく歌いました。孫は初めて聞く琴に大喜び。その夜は興奮して寝付けなかったそうです。

### ☆新連載企画 若院夫婦の『育自な日記』



先月の寺報でお知らせしたとおり、家族が一人増えました。

10月27日9時46分に長女・紗恵(さえ)が誕生いたしました。予定日から少し遅れて不安でしたが、おかげさまで無事生まれました。同時に長男の亮爾(2歳8か月)は、「お兄ちゃん」になりました。生活環境が変わって、いろいろと難しいことに...

私(由佳)が長女を抱いていると、「自分も抱っこして」とせがみます。さらに昼間は我慢している反動からか、夜中に不意に起きて泣き出し、母親である私の元に連れて行ってくれとせがみます(夫と亮爾は二階で、私と紗恵は一階で)。私も主人もこれには「やれやれ」といった感じですが、しかし「ミルク作るから」と言う「ぼくも(作る)！」とお手伝いしてくれませう。お客様に「(妹が)可愛いでしょ」と自慢げに紹介することもあります。「やきもち」とお兄ちゃんらしい振る舞いの二つに少しずつ慣れていっている長男。試練の日はまだ続きますが、私達夫婦も新しい家族の形に慣れていくと思います。(由佳・潤爾)

### 寄稿

姫路市 駅 貞 芳

☆秋祭り 屋台の乗り手 足らなくて 女の子も乗り 明るく楽し

### 生後2週間目

#### Eさんのいいもの紹介

☆美しき 柿に渋ある 浮世かな(作者不明) ※美しいものにはすぐに手を出すなという教訓。世間には渋・棘・だましありで要注意。ところで先日見事な柿を頂戴しました。食べたら渋柿。思わず吐き出しました。ところがこれを焼酎で拭いてリンゴと一緒に発砲スチロール箱に一週間ほど寝かせると、熟柿に変身。どんなスイーツにも劣らぬ美味しさ。一度度お試し下さい。果報は寝て待つ余裕と工夫が必要ですね。(坊守)

#### 三重組観劇ツアー緊急募集!

前進座「如月の華」九條武子物語  
平成27年1月28日(水)午後  
名古屋 中日劇場・1万2千円(チケット代、弁当代、バス代、保険含む)  
※各寺院10名程、先着順にて受付  
定員(三重組全体で300名)になり次第締め切り。観劇希望者は代金を添えて至急各寺までお申込み下さい。

#### ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」二五二号をお届けします。◇師走近くなる連日喪中葉書が届きます。大切な人を亡くされた方々にお悔やみ申し上げますと共に、後に残った我らも、必ず送られる時が来ることを思い、「生きてよし、死んでもよし」という道を聞き開きたいものです。◇一年間の愛読、ご厚誼ありがとうございます。どうぞ、よいお年をお迎えください。合掌・称名。

早くも師走を迎えます。一年を振り返り返して我が家は家族が人増えより賑やか。他にも本堂内陣天井工事、屋根瓦一部葺き替え、納骨堂新設、境内トイレシャム等慌ただしく過ぎました。その反面お参り衆の顔ぶれは様変わり、熱心にお参りされた方が高齢で姿をお見かけしなくなり、次第に寂しさを増しています。将来法座はどうなるのかと危惧しています。若い世代が生きる指針を仏法に求めず、聴聞する習慣が引き継がれない現実。この厳しさを目の当たりにして、お寺自身も新しい工夫と変革が求められています。毎月発行の寺報や毎日更新のブログ等、寺からの情報発信に努めますが、私達の元気の素は皆様からの反響。今後もしとご意見ご要望をお寄せ下さい。ところで、ロンドンで藤原直哉氏が「現代は三だけ主義」コ今だけロお金だけロ自分だけロよければいいと考える人が多いと主張されました。聴聞するとだけ取り除く世界が見えてきます。自分と他人との壁が無くなり、自由無碍の世界に喜びを見つめます。自分の幸せをお裾分けして共に喜び合いたいという気持です。若い世代にもぜひこの気持を伝えましょう。12月6日(土)夜、庫裡仏間にて「お内仏報恩講」を勤めます。せんさい酒食も用意します。皆様お誘い合わせてお参り下さいませ。また一年半後に迫った親鸞聖人七五〇回忌法要の種見募集も開始しました。子供や孫さんに仏縁を結ぶ絶好の機会です。皆様奮ってお申し込み下さいませ。寒さに向かう折、くれぐれもご自愛下さいませ。

平成二十六年十二月 善正寺坊守揮